

交通不便地域においておすそわけが食料調達に果たす役割に関する研究

1150434 武政 茜

高知工科大学マネジメント学部

1. 概要

地区全体を1つのネットワークとして研究対象にしたおすそわけに関する既存研究はほとんど存在しない。そこで、本研究は高知県幡多郡黒潮町白浜を対象地域とし、ネットワークを見るなかで、おすそわけが集落の中で維持できるメカニズムを明らかにする。聞き取り調査をもとに「年金としてのおすそわけ」「負荷分散型のおすそわけネットワーク」という2つの概念を見つけた。また、おすそわけは集落全てが繋がっているのかという問いを発見した。もし繋がっているのであれば、集落が一体となって年金的相互扶助を維持する装置としてのおすそわけという見方が成立する。

2. 背景

農村生活の既存研究を見てみると、吉野馨子(2008)では地域産品の入手の品目数において自給やおすそわけによる入手は店頭での入手に匹敵し、おすそわけは個々のネットワークに支えられていることを明らかにしている。室崎(2007)では一人暮らし世帯は夫婦のみのせたいとその他の世帯の2類型と比べておすそわけする割合が10%低いことを示した。また、佐藤信(2006)では家庭菜園による自給の場合、おすそわけが顕著にみられ、菜園作り、おすそわけは結果として健康づくり、趣味や楽しみ、コミュニティの維持に役立っていることを明らかにしている。

上記のような既存研究からおすそわけは食糧調達の重要な手段だとわかってきている。しかし、これまでの既存研究は個々の世帯においておすそわけは食料調達のどの程度の割合かを明らかにすることが目的であり、地区全体を分析単位とした研究はほとんど存在しない。すなわち、地区全体を1つのネットワークとみなし、それを研究対象としたおすそわけの研究はほとんど存在していない。

3. 目的

本研究はおすそわけが集落の中で維持できるメカニズムを明らかにすることを目的とし、①おすそわけの対象となる物品を人々はどのようにして入手しているのか。②農業や漁業などの生産手段を持たない人はおすそわけに参加しているのか。

③農業や漁業などの生産手段を持たない人はどうやっておすそわけのネットワークに参加しているのか。④おすそわけであげられるものが少ないのに参加できるのはなぜか。⑤おすそわけのネットワークは集落全体に繋がるのかそれともいくつかのクラスターになるのか。の5つの間について明らかにする。

4. 研究方法

4.1 調査対象地域

本研究は高知県幡多郡黒潮町白浜を対象とする。白浜は人口131人(2010年国勢調査)で他の部落から地形的に孤立しており、スーパーまで約4kmの集落である。

4.2 調査内容

白浜地区の住民へ聞き取り調査をする。聞き取り調査の内容はおすそわけの内容、おすそわけのやりとりがある人、年間回数などについてである。また、調査の結果をもとにおすそわけフローチャートを作成する。

5. 結果

5.1 データ収集結果

おすそわけに関して7世帯に聞き取り調査を実施した。

A氏の場合

A氏(70代)は無職で、一人暮らしをしている。おすそわけのやりとりのある世帯は7世帯で、貰っているものは鯉、鯰、鰻、皮剥、ほうれん草、大根、玉ねぎ、ピーマン、きゅうり、ネギ、蜜柑、お菓子などで、あげているものはお菓子、コーヒー、石鹸粉である。

B氏の場合

B氏(70代)は妻(70代)と二人暮らしである。両者とも無職であるが、家庭菜園で5種類の野菜と3種類の果物を作っている。おすそわけのやりとりがあるのは7世帯で、貰っているものは鯉、鯖、鰻、きゅうり、トマト、ニラ、お菓子、コーヒー、石鹸粉などで、あげているものは里芋、蜜柑類、砂糖などである。

C氏の場合

C氏は妻と二人暮らしである。農業をしており、きゅうり

やトマト、米を作っている。おすそわけのやりとりがあるのは7、8世帯で、貰っているものは鯉、ちりめんじゃこ、野菜、おかず、五目寿司、猪、ジュースなどで、あげているものはきゅうり、トマト、米である。

D氏の場合

D氏は夫と二人暮らしである。D氏は無職、夫は会社員であり、家庭菜園で6種類の野菜を作っている。おすそわけのやりとりがあるのは5世帯で、貰っているものは鯖、鰯、海緋鯉、ブダイなどの磯魚、きゅうり、お菓子、おかず、石鹸粉などで、あげているものは家庭菜園で作っているトマト、白菜、玉ねぎ、ネギなどである。

E氏の場合

E氏は息子と二人暮らしで、E氏は無職、息子は会社員である。おすそわけのやりとりのある世帯は3世帯で、貰っているものは鯖、鰯、海緋鯉、ブダイなどの磯魚、きゅうり、トマト、白菜、玉ねぎ、ネギなどで、あげているものはお菓子、おかずなどである。

F氏の場合

F氏(60代)は無職で、一人暮らしをしている。貰っているものはヒダリマキ、コウロウなどの磯魚、蛭、里芋、かぼちゃ、生姜、筍、大根、きゅうりなどである。あげているものはない。

G氏の場合

G氏(80代)は妻と二人暮らしである。両者とも無職であるが、家庭菜園をしている。おすそわけのやりとりがある世帯は5世帯で、貰っているものはお土産で、あげているものはお土産、おかずなどである。

5.2 分析結果

5.2.1 おすそわけフローチャート

7世帯の聞き取り調査の結果をもとにおすそわけフローチャートを作成した。

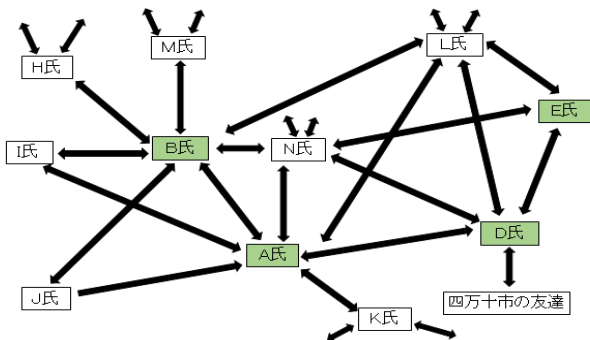


図 5-1 おすそわけフローチャート 1

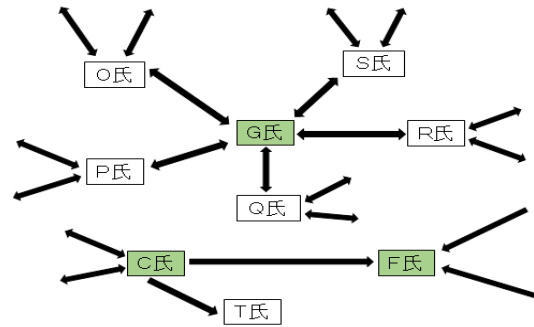


図 5-2 おすそわけフローチャート 2

図 5-1 と図 5-2 の矢印はおすそわけのやりとりを表しており、四角は人を表している。また、四角に色がついている人は調査対象者であり、色がついていない人は聞き取り調査に出てきた人である。H 氏のように誰とも繋がっていない矢印は今回の調査では聞き取り調査をしなかったため不明であるが他の人と繋がっている可能性を表している。図 5-1 の場合、A 氏は B 氏、D 氏、I 氏、K 氏、N 氏とはおすそわけをあげたり貰ったりしており、J 氏からはおすそわけを貰っているだけであることを表している。なお、I 氏と J 氏は集落外の人である。

5.2.2 おすそわけ授受表

おすそわけの内容をもとにおすそわけ授受表を作成した。

	A	B	D	E	H	I	J	K	L	M	N
A		石鹸粉 飲み物	石鹸粉 飲み物			石鹸粉 飲み物		石鹸粉 飲み物	石鹸粉 飲み物		石鹸粉 飲み物
B	蜜柑類 里芋					蜜柑類 里芋	蜜柑類 里芋	蜜柑類 里芋	蜜柑類 里芋	蜜柑類 里芋	蜜柑類 里芋
D	野菜			野菜 おかず				野菜	野菜		野菜
E			お菓子 おかず						お菓子		お菓子
H		ニラ									
I	魚	魚									
J	魚	魚									
K	魚		魚								
L	きゅうり	トマト きゅうり	きゅうり	きゅうり							
M		?									
N	魚	魚	魚	魚							

図 5-3 おすそわけ授受表

図 5-3 の横軸は貰ったもの、縦軸はあげたものを表しており、A 氏の場合、B 氏から蜜柑類と里芋を貰っており、B 氏に石鹸粉と飲み物をあげているということを表している。

5.2.3 おすそわけ収支

おすそわけの内容、おすそわけのやりとりがある相手、年間回数が明確なB氏、D氏、E氏、G氏を対象に貰うものとあげるもの、それぞれの金額の総額を計算し、貰うものとあげるもののどちらが多いのか明らかにする。

計算の前提として鯖は1匹300円、鰯は1匹100円、鰹は1匹3000円、トマトは1個130円、きゅうりは1本70円、ニラは1束150円、ネギは1束130円、白菜は1個300円、里芋は100g100円、玉ねぎは1個50円、みかんは1kg400円とする。

B氏の場合、M氏から貰うものが不明なためM氏とのやりとりは計算しないこととする。B氏がI氏、N氏から貰うものは鯖もしくは鰯であり、1回に貰う量は鯖であれば2匹、鰯であれば4匹で、1回あたりの平均金額は500円となる。両者ともに回数は年間5回のため1人当たり2500円となる。J氏から貰うものは鰹であり、1回に貰う量は1匹で1回あたりの価格は3000円となる。回数は年間3回のため、9000円となる。H氏から貰うものはニラであり、1回に貰う量は2束で1回あたりの価格は300円となる。回数は年間3回のため900円となる。L氏から貰うものはトマトかきゅうりであり、1回に貰う量はトマトであれば5個、きゅうりであれば7本で、トマトは年2回、きゅうりは年3回貰うため、2770円となる。武政桂子さんから貰うのはお菓子やコーヒー、石鹼粉であり、1回に貰う量はお菓子であれば1袋、コーヒーであれば6本、洗剤であれば1箱となる。お菓子は1袋300円、コーヒーは6本500円、石鹼粉は1箱300円とする。回数はお菓子は1回、コーヒーと洗剤は2回ずつで、1900円となる。これらを計算すると貰うものの合計は19570円となる。あげるものは年間5回貰っている5人にはみかん1kgを2回、里芋700gを2回、砂糖1袋を1回渡し、年間3回貰う2人にはみかん、里芋、砂糖を1回ずつ渡している。砂糖は1袋200円とするとあげるものの合計12200円であるため貰うものの方が多い。

D氏はN氏から貰うものは魚ではあるが鯖からブダイや海緋鯉など値段のつきにくいものまで様々なので1回あたり300円とする。回数は年間50回なので15000円となる。K氏から貰うものは鯖や鰯であり、1回に貰う量は鯖であれば2匹、鰯であれば4匹で、1回あたりの平均は500円となる。回数は年間4回のため、2000円となる。L氏から貰うもの

はきゅうりであり、1回あたり3本で1回当たりの金額は210円となる。回数は年間50回のため10500円となる。A氏から貰うものは300円のお菓子もしくは300円の石鹼粉であり回数は年間4回のため1200円となる。E氏から貰うものはおかずやお菓子であり、お菓子は1箱1000円、おかずは2人分で500円とする。回数は年間でお菓子が2回、おかずが10回のため、7000円となる。これらを計算すると貰うものは合計35700円となる。あげるものはN氏にはトマト、白菜、玉ねぎ、ネギのどれかで、1回にあげる量はトマトなら3個、白菜なら1玉、玉ねぎなら3個、ネギなら3束とする。4つの平均金額は307.5円で、回数は年間50回であるため合計で15375円となる。K氏、A氏にあげるものはトマト、白菜、玉ねぎ、ネギで、1回にあげる量はトマトなら4個、白菜なら1玉、玉ねぎなら4個、ネギなら3束とする。回数は年にそれぞれ1回ずつの4回なので、1410円となる。L氏にあげるものは白菜、玉ねぎ、ネギのどれかで、1回にあげる量は白菜なら1玉、玉ねぎなら3個、ネギなら3束とする。3つの平均金額は280円で回数は年間50回のため、14000円となる。E氏にあげるものはトマト、白菜、玉ねぎ、ネギ、おかずで、1回にあげる量はトマトは3個、白菜は1玉、玉ねぎは3個、ネギは3束、おかずは2人前とする。回数は年間野菜は30回、おかずは10回である。野菜の平均金額は307.5円で9225円、おかずは1回あたり500円とすると5000円で合計14225円となる。あげるものは合計46420円であるためあげるものの方が多い。

E氏は貰うものはN氏から魚を貰うが鯖や値段のつきにくい魚まで様々であるため、1回あたり300円とする。回数は年間50回のため、15000円となる。L氏から貰うものはきゅうりで1回あたりの量は3本とする。回数は年間50回のため、10500円となる。D氏から貰うものは上記に書いてある通りのため14225円となる。これらを計算すると貰うものの合計は39725円となる。あげるものはN氏、L氏には1000円のお菓子1箱で、回数は年間3回であるため、1人あたり3000円となる。D氏には1000円の菓子やおかず2人分で、回数は年間でお菓子が2回、おかずが10回のため、おかずを2人分500円とすると、7000円となる。これらを計算するとあげるものの合計は13000円になるため、貰うものの方が多い。

G氏は貰うものがお土産などで、1回あたり300円とすると、O氏、P氏、Q氏、R氏、S氏の5人から年に2回ずつのため

3000 円となる。あげるものは子供からのお土産で、こちらも 1 回あたり 300 円とすると 5 人に年に 2 回ずつの 3000 円となる。5 人の中の 1 人である O 氏にはおかずを年 12 回あげるため、おかず 1 人前を 300 円とすると 3600 円となる。これらを計算するとあげるものの合計は 6600 円分のため、あげるものの方が多い。

6. 考察と結論

前章をもとに目的であげた 5 つの間について答えていく。

①おすそわけの対象となる物品を人々はどのようにやって入手しているのか。

B 氏があげるものとして家庭菜園で自作した里芋や蜜柑、商店で購入した砂糖。D 氏があげるものとしては家庭菜園で作った白菜、トマト、玉ねぎ、ネギ。E 氏があげるものとして商店で購入したお菓子、自分で調理したおかず。G 氏があげるものとして子供から貰ったお土産、自分で調理したおかずである。以上のことから入手の手段として

農業 \geq 購入 \geq 調理 \geq 貰い物

がある。

②農業や漁業などの生産手段を持たない人はおすそわけに参加しているのか。

A 氏と E 氏の場合、無職で家庭菜園もしておらず生産手段を持っていないが A 氏は 7 軒、E 氏は 3 軒とおすそわけのやりとりがあるため、生産手段を持たない人でもおすそわけに参加している。

③農業や漁業などの生産手段を持たない人はどうやっておすそわけのネットワークに参加しているのか。

A 氏の場合、おすそわけであげるものは商店で購入したお菓子、コーヒー、石臼粉である。E 氏の場合、おすそわけであげるものは商店で購入したお菓子もしくは自分で調理したおかずである。このように生産手段を持たない人はおすそわけとしてあげるものを購入や調理で入手することでおすそわけのネットワークに参加している。

④おすそわけであげられるものが少ないのに参加できるのはなぜか。

E 氏は貰うものが 39725 円分、あげるものが 13000 円分とあげるものが貰うものの 3 分の 1 になっている。

貰ったらあげるが一般的であるならばこのようなことにはならないはずである。

E 氏の若い頃は夫が兼業農家をしていたため、しっかりと

おすそわけをあげていたが夫が亡くなったためあげられるものが少なくなった。しかし、貰うという関係が続いている。このような貰うものが少なくなってもあげる側はそれまでと変わらないという構図がありそうだ。このようにおすそわけは年金のような性格を持っていると考えられる。

また、おすそわけのネットワークに 2 人しかいない場合は収支がつりあっていないとおすそわけは長続きしないだろう。しかし、生産手段を持たない収入過多の人は多くの人に支えられており、支える側の人も全てのおすそわけのやりとりを見れば支出過多が軽減されている。このようにおすそわけのネットワークが広がることで負荷が分散されると考えられる。

⑤おすそわけのネットワークは集落全てに繋がるのかそれともいくつかのクラスターになるのか。

現状では 3 クラスターにわかれているが

A 氏「集落全てが繋がっちゃうと思う」

B 氏「誰ともやりとりをしよらん人はおらんし、どこか

しらでは繋がっちゃうやろ」

というように当事者達の発言では繋がるということが予想された。今回は調査数が少なかったため正確なデータはわからなかった。しかし、おすそわけをしている当事者たちでも自分以外の世帯のおすそわけの相手はわからず、繋がるかどうかは推測でしか話せないことがわかる。

以上の 5 つの間からおすそわけは農業や漁業などの生産手段を持つ人たちだけがしているのではなく、購入や調理を用いることによって生産手段を持たない人も参加していることを明らかにし、「年金としてのおすそわけ」「負荷分散型のおすそわけネットワーク」という 2 つの概念を見つけた。

また、本研究ではおすそわけのネットワークが集落全てに繋がるのかという問を発見した。もし本当に繋がっているのであれば、集落が一体となって年金的相互扶助を維持する装置としてのおすそわけ、という見方が成立することになる。

参考文献

- [1]吉野馨子・片山千栄・諸藤享子(2008)「住民による農産物の入手と利用からみた地域内自給の実態把握—長野県飯田市の事例調査から—」農林業問題研究 172 号 45-56 頁
- [2]室崎千重・重村力・山崎義人(2007)「一人暮らし高齢者の移住継続を支える近隣環境に関する研究—京都市都市部の旧富有小学校校区を事例として—」日本建築学会計画系論文集 73 巻 631 号 1907-1914 ページ
- [3]佐藤信「過疎地域における高齢者の食糧調達構造—生活実態調査(2000, 05 年)による比較分析—」流通 19 号 77-81.